

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度 第1回相模原市発達障害者支援地域協議会		
事務局 (担当課)	陽光園 電話042-756-8410 (直通)		
開催日時	令和4年8月4日(木) 15時00分～17時00分		
開催場所	相模原市立産業会館3階 大研修室		
出席者	委員	19人(別紙のとおり)	
	その他	1人(相模原公共職業安定所 高橋麻矢)	
	事務局	13人(こども・若者未来局長、陽光園所長、発達障害支援センター所長、療育相談室長、他9人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱式 2 令和4年度発達障害者支援地域協議会について 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達障害支援事業について <ol style="list-style-type: none"> ア 陽光園・療育相談室 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 令和3年度実績について (イ) 陽光園組織改正について (ウ) 令和4年度事業計画について イ 発達障害支援センター <ol style="list-style-type: none"> (ア) 令和3年度実績について (イ) 令和4年度事業計画について (2) 各部会における取り組み状況の報告 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 乳幼児期部会 (イ) 学齢期部会 (ウ) 成人期部会 4 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 光が丘地区の公共施設再編に向けた取組について 		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 委嘱式

2 令和4年度発達障害者支援地域協議会について

(昨年度に引き続き日戸氏が会長、大山氏が副会長として、事務局より資料に基づき説明を行った)

3 議題

(1) 発達障害支援事業について (会長の進行により議事が進められた)

ア 陽光園・療育相談室

- (ア) 令和3年度実績について (資料2)
- (イ) 陽光園組織改正について (資料2)
- (ウ) 令和4年度事業計画について (資料2)

イ 発達障害支援センター

- (ア) 令和3年度実績について (資料3)
- (イ) 令和4年度事業計画について (資料4)

(日戸会長) 学齢期の新規相談件数について補足願いたい。

(事務局) 学齢期の新規相談件数は、3区子育て支援センター合わせて462件となっている。

(日戸会長) インクルーシブセミナーについて補足する。セミナーは、相模原市と相模女子大学との協働で開催している。今年度は、インクルーシブ教育実践推進校の橋本高校や上鶴間高校との交流を予定している。参加者が自分たちの活動を動画で発信する等、新たな試みもしていく。また報告する。

(赤石澤委員) 発達障害支援センターの新規相談件数について。成人当事者の支援ニーズは高まっており、手帳交付や障害福祉サービス利用者数が年々増加している。そうした中で、センターの相談件数が減っている理由を伺いたい。

(事務局) 件数の減少は、令和元年度に小学生まで、令和2年度に中学生までの相談を3区の子育て支援センターに移管したことによるもの。高校生年齢以降は引き続き発達障害支援センターで相談を受けている。

(日戸会長) 相談件数のカウントの仕方が変わったのが理由ということ。

(赤石澤委員) 割合から見ると件数はさほど変わっておらず、理由も承知した。

(長沢委員) 福祉研修センターでも様々な研修を実施しているが、実際の現場で活かすにあたっては、参加者と一緒に考えていくことが必要だと感じている。同様の事業として、センター等で行っている機関コンサルテーションについて、具体的に教えていただきたい。

(事務局) 療育相談室では、専門職が主に保育園、幼稚園、こども園等に出向き、それぞれの園のニーズを一緒に考えてコンサルテーションを実施している。

(事務局) 発達障害支援センターでは、主に就労支援事業所からの求めによって行っている。

(大山副会長) 保育園などの巡回訪問の制度について、どのようなルートで利用出来るのか教えていただきたい。

(事務局) 陽光園が事務局となり、実務は3区の子育て支援センターが窓口となって行っている。具体的には、各園に子育て支援センターから通知を送付し、園からの希望を受けて年1～2回訪問している。

(大山副会長) 「なかなか巡回に来てもらえない」という話を保育園等から園医として聞くことがある。制度について、園に再度周知をしておきたい。1～2歳台はやはり気になる子が多い。ぜひ活用を勧めたい。

(日戸会長) グレーゾーンの子が増えてきており、機関コンサルテーションの充実が求められている。

(大山副会長) 発達上の気付きに関しては、園医が積極的に関わることが求められている。保育園でもマニュアルの作成等をして取り組んでいるので、ぜひ支援してほしい。

(事務局) 園単位での研修も引き受けている。ぜひ、積極的な活用を園に勧めていただきたい。

(2) 各部会における取り組み状況の報告

(ア) 乳幼児期部会 (資料5)

(斎藤委員) 日々、未就学児から個別の専門療育を行っている。力のある保護者であれば自分の子に合わせた療育を選べるが、集団がよいのか個別がよいのか判断が難しいこともある。どの事業所につながるのがよいのか、じっくり考えていくサポートをしていきたいと思う。事業所による特性も踏まえることが必要になってきている。

(神谷委員) 様々な事業所が増え、特徴の把握が難しい。保護者もどう選ぶか悩んでいる。受給者証の取れない児の支援に関する課題について、具体的に教えてほしい。

(守屋部会長) 支援級等に在籍しておらず、法的には福祉の支援を要する対象に

なっていないものの、保護者が育てにくさを感じる児がいる。法的に支援の必要性が認められていない児の支援をどうするかという課題がある。

(千谷委員) 民間の児童発達支援事業所は、受給者証を取得して利用してサービス利用をしてもらわないと収入を得られない。受給者証の取得は、療育手帳取得か医療機関での診断を得られた場合、どちらかに該当すれば可能となるが、2歳前だと診断まで出ていない児もいる。また、病院に行ってまで診断を受けることに抵抗感を持つ保護者もいる。福祉サービスの利用については事業所の雰囲気等によって敷居は低くなってきている一方、受給者証の取得に関する課題がある。支援ニーズがある児に対し、どのようなアプローチができるか、という話。

(神谷委員) 似ている課題として、どこまで医療が踏み込んで扱うかどうかも難しい。スペクトラムという概念の中では対象を広げつつも、薬は医療でとり扱うとして、子育て相談にどこまで時間を持てるか、リソースの問題がある。保護者がつながる力に課題があり、うまく地域で繋がらない人もいる。孤立している家庭もあると思う。児相と関わるほどではなく、発達の診断がつくほどではないけれど、支援を必要としている児をどのように取り扱うか難しい。昔であれば、親族やご近所さんが支援していたと思うが、家族間のつながりが乏しいこともある。関係機関等と関わりを持っていきたい。

(千谷委員) 令和4年度の部会で扱おうとしている数字の件。グレーゾーンの支援の課題に直面しているのは検診を実施する母子保健班であり、話を伺うと非常に悩んでいることが感じられた。漠然と思い悩むよりも、具体的な数字を出して、何かしらの支援につなげていきたい。例えば、市全体で1学年6000人として、そのうち500人くらいが就学移行支援を利用しているとすると10%くらい支援を必要としている児がいることになる。そうした具体的な数字を出していきながら、より細かく分析していきたい。

(日戸会長) 国の調査よりも多い人数が出ていることから、制度が整備されてきていると感じる。

(イ) 学齢期部会 (資料8)

(日戸会長) 学齢期の保護者支援が一番手薄だったように感じられる。このような意見交換がされていることが喜ばしいと感じた。

(守屋委員) 家庭と教育と福祉の連携の話題の中で強みに関する当市の事例を教えていただけるとありがたい。

(千谷委員) 体感としては、児相・学校・事業所のつながりが、人としてつながっているところに温かみを感じる。

(日戸会長) 学齢期の支援に関わる立場からの意見をいただきたい。

(芳賀委員) インターンシップなどの話を聞くと、支援学校以外の学校でも一般の学校のシステムをもって、保護者も一緒に振り返りつつ、何をしたいかを考えながら利用している。この「何がしたい」「何が好き」というマッチングを、放課後等デイサービス利用の中でもやってきてもらえるとよい。アセスメントしたことはいずれ、保護者から子どもに渡っていく。家庭と教育と福祉がトライアングルになって育てていけるとよい。

(日戸会長) トライアングルの連携がどこに向かっていくのかを意識して、という提言と受け止めた。

(神谷委員) 外来に来るのは3歳台からが多い。長く診ていきたいが、中学生以上からは他の医師に委ねていく流れがある。長期的に診ていると、当初の診立てよりも発達を遂げる子もいれば、ポテンシャルを持っているのに発揮できない子もいる。発揮しにくい子は、本人のできることと保護者や学校の理解のギャップが大きくて苦勞していることが多く、これが数年続くと二次障害になることもある。スクールカウンセラーからの相談を受ける中で、保護者は子の状態を診断等で頭では理解しているが、将来どう生活していくかのイメージが持てておらず、自覚なく負荷をかけてしまうこともある。手帳B1 くらいの子に対し、小学校高学年くらいの勉強をさせる保護者や学校の先生もいたりする。過剰適応で本人は頑張ってきているが、精神疾患を疑うような状態にいたるような二次障害の不安もある。小学校の基本的なことをできたらほめ、学校で頑張ったことを認めるなど、基本的関係作りを大事にすべきところ。おいしくご飯を食べ、宿題もほどほどにはして、健康に、という考えで。

支援級はIQのばらつきがかなり大きく、一番対応が難しい場所だと思う。外来でも同じ支援級に通っている子の状態像がかなり異なっており、支援学校で適応するような子もいる。手をかける必要がある子に対し、必要な手当てをしていくことを考えてもらいたい。

(日戸会長) アセスメントやモニタリングが出来ることが、トライアングルでの連携の強みになる。ぜひ部会で検討を重ねてもらいたい。

(ウ) 成人期部会 (資料9)

(長沢委員) インターフェイス、つなぐ役割の大切さを改めて認識した。キーステーションや就労援助センターを法人として実施しているが、連携を意識し、さらに利用しやすくなるよう検討したい。相模原の強みとして挙げられているところをさらに伸ばしていきたい。また、余暇や生きがい支援については、イ

ンクルーシブセミナーの会議に出席して、参加者がイキイキとしていて、フラットな関係を作り上げているのが興味深かった。けやき体育館での余暇活動にも参考になる。

(柳場委員) 親自体が高齢化するまでに何とかしたいという思いがある。どうやって育ててきたか、12歳までに何を教えてきたかが大事だったと今になって感じる。優しさが大切。いじめの問題もある。小さいときから肯定的な関わりが大切だと思う。

(日戸会長) 先ほどの神谷委員の話も踏まえて大切なところだと思う。

4 その他

(1) 光が丘地区の公共施設再編に向けた取組について (資料8)

(2) その他

今後のスケジュールについてのお知らせ

・第2回の協議会 令和4年11月24日(木) 15時より市民会館にて

本会議、部会ともに、開催形態や開催場所については、新型コロナウイルス感染症に係る国や市の動向に合わせて、今後連絡予定。

以上

令和4年度 相模原市発達障害者支援地域協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属	備 考	出欠席
1	日戸 由刈	相模女子大学	会長	出席
2	大山 宜秀	一般社団法人相模原市医師会	副会長	出席
3	神谷 俊介	北里大学病院		出席
4	柳場 秀雄	相模原市自閉症児・者親の会		出席
5	島森 政子	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		欠席
6	西村 三郎	社会福祉法人風の谷		欠席
7	赤石澤 勝	地域活動支援センターカミング		出席
8	斎藤 優子	社会福祉法人すずらんの会ぱれっと		出席
9	千谷 史子	NPO法人ワンダートンネル		出席
10	守屋 久	児童発達支援センター青い鳥		出席
11	長沢 伸孝	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団		出席
12	見目 茂則	神奈川県立相模原養護学校		出席
13	松本 祥勝	学校教育課		欠席
14	加藤 政義	青少年相談センター		出席
15	芳賀 美和	相模原公共職業安定所		出席
16	加藤 智也	相模原警察署生活安全第一課		欠席
17	小林 誠	高齢・障害者福祉課		出席
18	宍倉 久里江	精神保健福祉センター		出席
19	石井 望	緑高齢・障害者相談課		出席
20	遠山 芳雄	保育課		出席
21	江成 敏郎	こども家庭課		出席
22	並木 重人	南子育て支援センター		出席
23	江成 浩史	児童相談所		出席